

V 溝 直 播 情 報

～鎮圧整地におけるグリホサート抵抗性ネズミムギの防除について～

鎮圧整地では、グリホサート抵抗性ネズミムギ（ラウンドアップ抵抗性イタリアン）が発生しやすくなります。多発すると、V直播種精度の低下や次作の小麦作への影響が生じる上に、ほ場の外観が著しく悪くなります（写真）。



写真 ネズミムギ多発ほ場の様子

本稿では、鎮圧ほ場におけるネズミムギの発生消長とその除草体系について、愛知県農業総合試験場の試験結果より説明します。

○ ネズミムギの発生消長について

ネズミムギの出芽は10月ごろから始まり、4月まで続きます（図1）。

整地後のネズミムギの草丈について、整地前からの再生個体と整地後に出芽した個体を比べたところ、再生個体の方が株が大きく、イネ生育に及ぼす影響が大きいと考えられました（図2）。

また、ネズミムギの個体数とほ場被覆率の関係を調査したところ、出芽個体数よりも再生個体数の方が被覆率に大きな影響を与えていたため、再生個体の防除が肝要であることがわかりました（図3）。

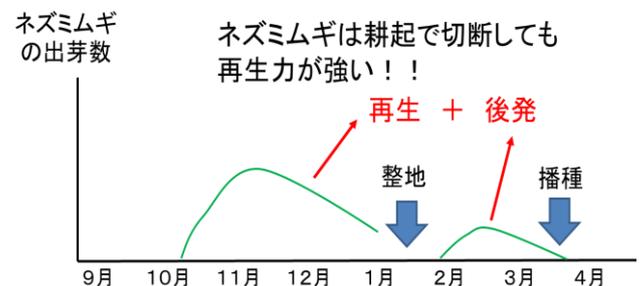


図1 ネズミムギの発生消長

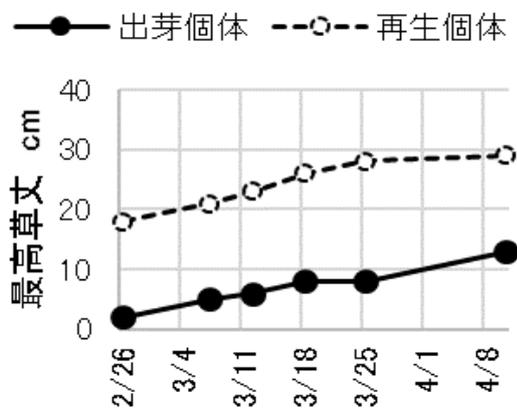


図2 ネズミムギ再生個体と出芽個体の草丈

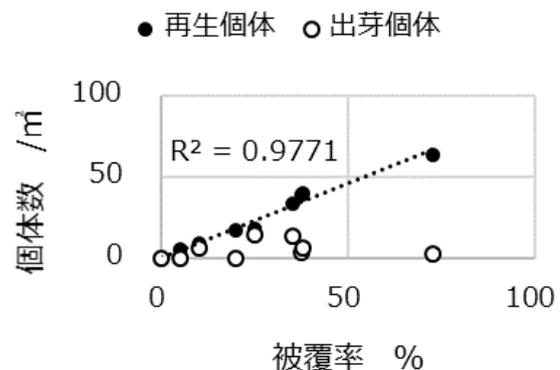


図3 ネズミムギの個体数とほ場被覆率の関係

○ 有効な除草剤について

ネズミムギについては、「ザクサ液剤」と「プリグロックスL」が高い効果を示します（図4）。

また、「ザクサ液剤」と「プリグロックスL」は、共に散布後10日以内に耕起すると、再生個体数が少なくなるということがわかりました（図5）。

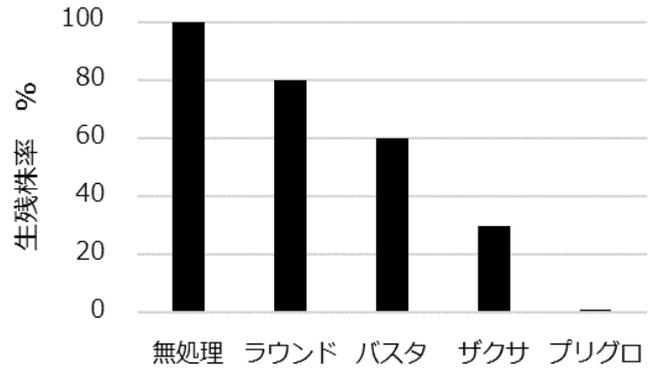


図4 除草剤散布後の生存株率

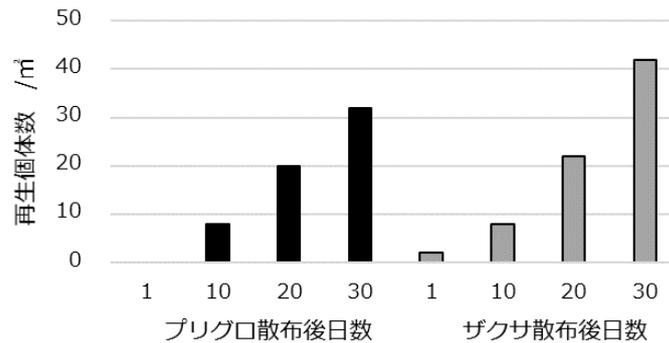


図5 除草剤散布の後耕起時期と再生個体数の関係

○ V直のネズミムギに有効な除草体系について

以上の試験結果と、登録上「ザクサ液剤」は耕起前にしか使えないことを踏まえ、有効な除草体系を検討してみました。耕起10日前～耕起前日の「ザクサ液剤」により耕起後の再生個体を抑制し、播種14日前～播種前日の「プリグロックスL」により整地後出芽個体と再生個体を防除します（図6）。

2019年と2020年に、この除草体系をネズミムギ多発ほ場で試験したところ、両年とも対無処理区比で残草量が10%以下と非常に高い除草効果が得られました。

今後も現地で除草体系の有用性の検討を継続するとともに、耕種的防除を組み合わせ、より効果的な防除体系の開発にも取り組んでいく予定です。

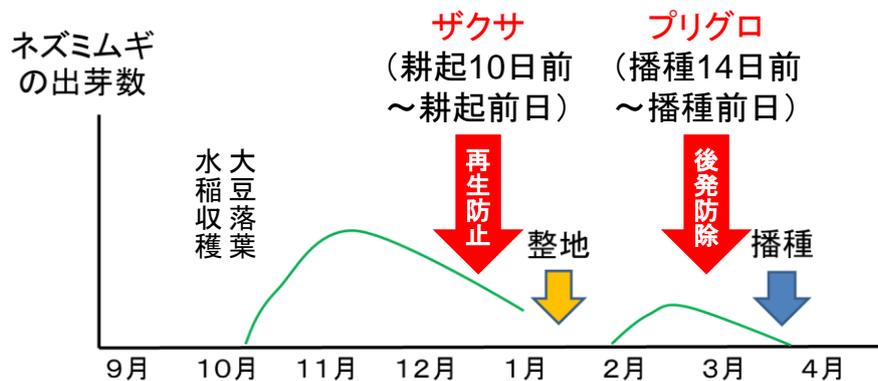


図6 V直におけるネズミムギ防除体系のイメージ